（別紙様式３）

令和４年３月３１日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長　殿

住所　　島根県松江市殿町１番地
管理機関名　　島根県教育委員会
代表者名　　教育長　野津　建二

令和３年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を，下記により提出します。

記

１　事業の実施期間

令和３年　４月１日（契約締結日）～　令和４年　３月３１日

２　指定校名・類型

学校名　　島根県立平田高等学校
学校長名　小林　努
類型　　地域魅力化型

３　研究開発名　地域人材育成循環システム「平田プラタナスプラン」の構築

４　研究開発概要

生徒が地域での成功体験を積み上げ、将来的に地域で活躍したいという思いを育むことを目指し、具体的には、以下の３つのテーマに基づき地域協働学習を行う。

①　地域ブランドの創出
・地域資源の活用により、今ある資源の価値を再発見し、新しい価値を創造する。
・地域ブランドの創出のノウハウとそのためのカリキュラム開発手法を地域および高校に定着させる。
・生徒が将来地域ブランドの創出に関わる仕事がしたい、または、地元で起業して新しい産業を生み出したいという意欲を育てる。
・地域ブランドを次々と創出していくことができる地域人材を育成する。

②　多文化共生社会の推進
・多文化共生社会の推進に関わるノウハウと、そのカリキュラム開発手法を地域および高校に定着させる。
・同じような手法によって、多様な文化を持つ人々が住みやすい街づくりを進める。

③　ファン人口・交流人口の増加策
・観光振興のノウハウと、そのカリキュラム開発手法を地域および高校に定着させる。
・観光客向けの飲食店が増えるなど、産業が活性化する方法を考える。
・地域の資源を活かした街づくりに積極的に関わる人材を育成する。

５　学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

・学校設定教科・科目　　開設していない
・教育課程の特例の活用　　活用していない

6　運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
細田　智久	島根大学総合理工学部建築デザイン学科・教授	
矢野　俊人	スプレッドリンク株式会社（島根県６次産業化プランナー）・代表取締役	
岩田　英作	島根県立大学人間文化学部・学部長	
多久和祥司	伊野やって未来（みら）こい！ネット事務局長	
高橋　泰幸	しまね国際センター・常務理事	
岩本　悠	地域・教育魅力化プラットフォーム・代表理事	
柿本　章	島根県教育委員会・教育監	

7　高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者	
島根県立平田高等学校（地域協働推進校）	校長	小林　努
平田商工会議所	会頭	大谷 厚郎
公立大学法人島根県立大学	理事長	清原 正義
出雲市	市長	飯塚　俊之
平田ロータリークラブ	会長	堀江　卓男
平田ライオンズクラブ	会長	梶谷　直子
平田地域コミュニティセンター（11 地区）	東ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ長	坂本　勝
平田青年会議所	理事長	多々納 寛之
雲州平田文化協会	会長	山下 壮一
ひらたＣＡＴＶ	代表取締役社長	石原 俊太郎
ＮＰＯ法人ひらたスポーツ・文化振興機構	理事長	二瀬 武博
出雲市立平田中学校	校長	松原 典生
出雲市立向陽中学校	校長	糸原　進
カリキュラムドクター	島根県非常勤職員	金築 千晴
農林水産省中国四国農政局宍道湖西岸農地整備事業所	所長	渡邊　泰夫
島根県教育委員会	教育長	野津　建二
平田高校ＰＴＡ	ＰＴＡ会長	角　啓好
平田高校暁星会（卒業生会）	会長	山下 壮一

8　カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	金築　千晴	ひらた在宅ＳＯＨＯ支援センター ポコアネット代表	呼称「カリキュラムドクター（ＣＤ）」 ・島根県非常勤職員として雇用 ・平田高校教務部に配置, 原則週２日勤務
地域協働学習支援員	山岡 忍 小村 孝治 竹下 紀子	平田商工会議所 事務局長 平田商工会議所 職員 〃	・呼称「ミッションコーディネーター（ＭＣ）」 ・平田商工会議所職員と兼務

9　管理機関の取組・支援実績

（1）実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会				1回				1回				1回
コンソーシアム構築・運営支援	教育庁各課横断の伴走											
探究学習推進	研修① 担当者設定		ミニ研修①			ミニ研修②				ミニ研修③	発表会 研修②③	
	探究指導主事の伴走											
コーディネーター研修		研修①	研修②③		研修④			研修⑤⑥		研修⑦		
高校魅力化評価システムによる調査・検証	活用研修①		調査	フィードバック	活用研修②		活用事例共有					
	各校の検証、県担当者の伴走											
人員配置							予算要求					配置決定

（2）実績の説明

①運営指導委員会の開催

活動日程	活動内容
７月２０日	第１回運営指導委員会 ・探究活動について、その都度の活動内容だけでなく、「何を目指しているのか」を明確にしておく必要がある。 ・生徒が考える手助けとなるような大人の関わり、声がけが必要である。 ・平田高校地域協働フォーラム２０２１・秋について
１１月　２日	第２回運営指導委員会 ・フォーラムの発表を踏まえ、メモをとりながら主体的に「聞く」ことの指導、プレゼンテーション力の育成が必要である。 ・プレゼンテーション力も含め、探究活動で育成したい力と、教科で育成したい力を相互につなげる意識と工夫が必要である。 ・平田高校地域協働フォーラム２０２２・春について
３月　９日	第３回運営指導委員会 ・日常的に地域住民や、保護者、卒業生が生徒と関わることができるような体制について検討してはどうか。 ・負担増とならないように工夫しながら、今後も地域連携や地域協働学習の取組を継続していく。

②授業や発表会への参加等

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
授業への参加				1回				1回				1回
成果発表会への参加・助言								1回				1回
事業の広報								1回		1回		1回

③体制支援・活動支援

コンソーシアム構築・運営支援	４箇所の先導モデルの知見を他のコンソーシアムの設置や運営に活用。効果的な構築・運営のための年間を通じた伴走を実施。コンソーシアムの運営費、運営マネージャー配置費を支援（県 1/2）
探究学習推進	令和２年度から教育庁に探究学習専任指導主事を配置。あわせて探究学習を推進する教員を各校１名設定し研修を実施（必修３回、希望者３回、助言支援随時）。探究学習（地域課題解決型学習）実施に係る経費を支援し、高校生・教員が探究学習の成果を発表する場（「しまね大交流会」、「しまね探究フェスタ」）を設定（今年度はオンラインでの実施）。その他、年間を通じて探究学習の推進に係る助言等を実施。
魅力化コーディネーター研修	市町村等で配置されている魅力化コーディネーターの研修や、教職員のコーディネート機能の研修を実施。
高校魅力化評価システムの構築と活用研修	「社会に開かれた教育課程」の要素を定量的に把握するため、生徒と地域へのアンケートを実施。結果を基に校内研修を実施している学校の事例発表を含めた、グランドデザイン実現に向けた PDCA 構築のための教職員研修を実施。
人員配置	新しい高校づくりに向かう体制構築として、県単独加配の主幹教諭をＲ３年度は 15 名配置、Ｒ４年度は３名増員。さらに、Ｒ３年度は高大連携を推進する職員を３名配置。

④事業終了後の自走を見据えた取組について

・「教育魅力化人づくり推進事業」の継続や教育庁の教育魅力化推進チームの伴走体制の強化による学校・コンソーシアムへの支援の継続
・学校と地域が協働して取り組む PBL 型研修の実施による、各コンソーシアムの主体的取組への推進支援
・令和３年度末にすべての高校でコンソーシアムが構築。令和４年度からは学校運営協議会制度を導入し、一体的に運用することで、法的権限を持った組織として機能強化
・すべての教職員が活用できるよう ICT 環境の整備と研修を実施
・探究学習推進担当者を中心とした探究的な学びについての質の向上研修の継続
・クラウドファンディングやふるさと納税等を活用した教育活動資金獲得について、研究を継続、知見を共有
・探究学習や教育課程開発を推進する教職員や教育魅力化コーディネーターの配置、養成・確保・育成
・各校が作成したグランドデザイン実現に向けた取組のさらなる推進。「高校魅力化評価システム」等を活用した PDCA サイクルの構築と活用研修の実施

１０　研究開発の実績

（１）実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
カリキュラム開発専門家との協働研究			10回	6回	1回	5回	10回	6回	4回	4回		2回
地域協働学習支援員との協議	2回	3回	3回	2回	1回	4回	5回	2回	1回	1回		1回
２年生 地域協働学習 班別探究活動		2回	3回	2回	1回	4回	6回	1回	6回	3回	4回	2回
１年生 個人探究活動								3回	3回	2回	2回	
３年生 個人探究活動		2回	5回	2回								

（２）実績の説明

①年間の活動内容

<table>
<tr><td rowspan="4">カリキュラム開発専門家との協働研究</td><td colspan="3">４月～３月</td></tr>
<tr><td colspan="3">地域協働学習ワーキングチーム会議への参加（月に２回程度実施）</td></tr>
<tr><td colspan="2">４月～１１月</td><td>１１～３月</td></tr>
<tr><td colspan="2">・２年生地域協働学習「班別探究活動」の授業への参加
・生徒への働きかけや取り組ませ方についての校内担当者との協議
・授業担当者へのアドバイスと地域人材の紹介・折衝による支援
・３年生「未来予想図Ⅲ」校内発表会の実施についての協議、発表会への参加</td><td>・１年生「個人探究活動」についての協議（次学年につなげる取り組みや年度の振り返りを協議）
・地域人材の紹介と折衝
・授業への参加と生徒支援
・生徒企画行事（平田まつり）の参加・補佐・助言・事後の教員へのフォロー
・次年度に向けての事業内容、日程等の協議</td></tr>
<tr><td rowspan="4">地域協働学習実施支援員との協議</td><td colspan="3">４～２月</td></tr>
<tr><td colspan="3">・２年生地域協働学習「班別探究活動」の授業支援
・地域協働学習校内担当者との協議
（班別探究活動のための来校時、その他は電子メール）
・地域人材の紹介、授業内での補佐
・各種地域イベントにおける生徒の活動支援・補佐
・地域資源・地域人材の紹介</td></tr>
<tr><td>４月～５月</td><td>６月～１月</td><td>２月～３月</td></tr>
<tr><td>・平田商工会議所と平田高校との役員打ち合わせ
・２年生班別探究活動に関する協議
・２年生地域協働学習のフィールドワークを実施</td><td>・平田高校地域協働フォーラム２０２１・秋（班別探究活動中間発表）への参加</td><td>・平田商工会議所と平田高校との打ち合わせ
・次年度の実施体制、改善点等について検討</td></tr>
<tr><td>学年</td><td>４月～７月</td><td>８月～１１月</td><td>１２月～３月</td></tr>
<tr><td>１年生</td><td>・総探・キャリア学習ガイダンス
・平田ウィングバスツアー
・学問分野別ガイダンス
・「地域みらい学」
（平田地域の地理・歴史）
（出雲国風土記で描かれた平田地域）</td><td>・地元企業ガイダンス
・キャリア講演会
・職業人講演会
・平田高校地域協働フォーラム２０２１・秋</td><td>・個人探究活動
・平田高校地域協働フォーラム２０２２・春</td></tr>
</table>

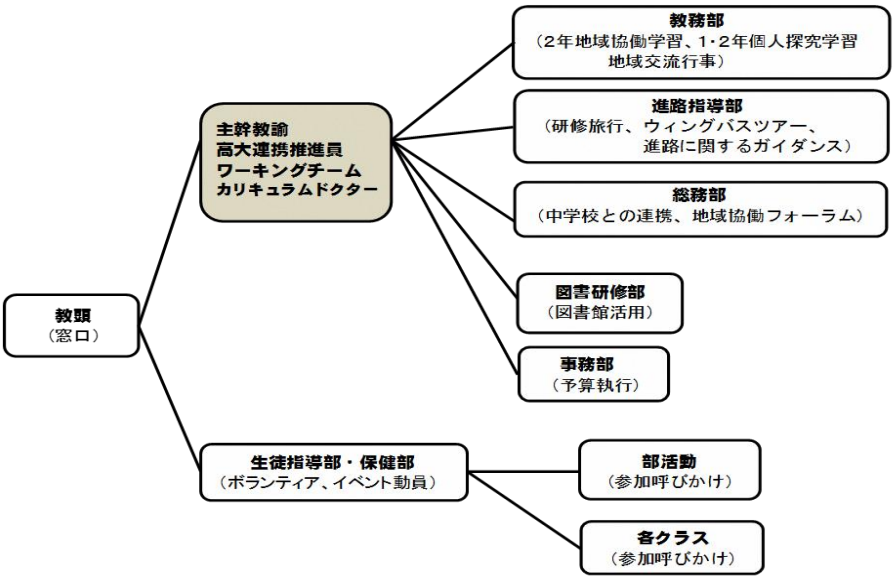
２年生	・地域協働学習ガイダンス ・地域フィールドワーク ・「地域との協働による探究」に関する講演会 ・班別探究活動	・平田高校地域協働フォーラム２０２１・秋	・プレゼンテーション講習 ・平田高校地域協働フォーラム２０２２・春
３年生	探究学習と進路に関するプレゼンテーション （校内発表会） （中学校での発表） （島根県立大学生への発表）	・平田高校地域協働フォーラム２０２１・秋	・「探究学習を終えて」（１、２年生に向けた代表生徒による発表）

②研究開発の実施体制について

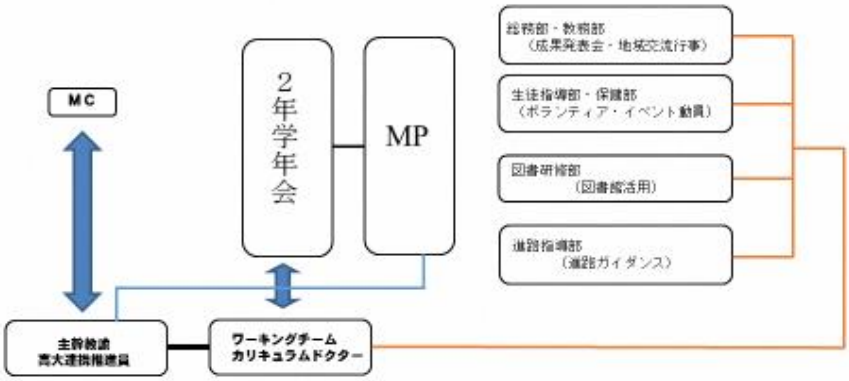
ア：地域人材との協働

カリキュラムドクター（CD）	2 年生地域協働学習支援　カリキュラム開発支援
ミッションコーディネーター（MC） （地域協働学習実施支援員） ※平田商工会議所から無償で派遣	2 年生地域協働学習支援 2 年生地域協働学習で必要な地域人材と学校のコーディネーター
ミッションプランナー（MP）	専門的知識を有する地域人材・大学教員など

イ：地域協働事業全体の校内体制



ウ：２年生地域協働学習・班別探究活動の研究開発体制



③類型毎の趣旨に応じた取組について

地域課題解決型学習に関わるカリキュラム開発と、地域の価値を見いだし、さらに価値を創造する地域人材の育成を目指して、地域魅力化型の事業に取り組んできた。

特に２年生の地域協働班別学習においては、グループ活動を通して課題探究の方法を考え、地域をフィールドとして情報収集や検証活動を行っていく。自らの意見を明確に伝え、他者の意見も受容しながら合意形成を図る態度を全教科で育成していくことを狙い、今年度は授業改善のための研修、研究授業のテーマをともに「キョウドウ」とした。また、意識的に教科横断的な内容を含めて研究授業をすることにより、教科の学習内容を実生活に近い素材に落とし込んで指導を行った。

「キョウドウ」をテーマとした研究授業	
教科	内容
国語	「出雲風土記」を読み、過去の出雲についての記述を知る
地歴公民	日本経済における「キョウドウ」
数学	指数を拡張し指数の数を自然数から整数までに拡張し、その上で、化学基礎の教科書の内容の負の整数の指数を使った内容の部分に注目し、その内容の理解を深めた
理科	・大地の動きと出雲平野の形成 ・学習で理解できた免疫のしくみに関する知識を、学習課題解決のために適切に活用する
保健体育	ストレスへの対処
芸術	平田高校校歌の曲想と歌詞が表す情景や心情、楽曲の背景との関わり
英語	Let’s make haiku in English!
家庭	麻婆豆腐でお父さんの誕生日を祝おう ～ジグソー法による商品選択～

今年度は、この事業について、地域の認知、理解が進み、これまで以上に協力が得られたこと、前年度までの人脈をさらに広げることができたことから、生徒の多様な興味に対応することができた。

また、教育課程内で行った活動がきっかけとなり、地域での自主的な活動を始める生徒が少しずつ出てきており、これらの生徒についても地域の協力をいただきながら、学びを深めることができている。

④ 成果の普及方法・実績について

月日	名称	実績
７／２９	山陰探究サミット	令和２年度２年生班別探究活動の成果発表　　代表２班（４名）参加 （来場者１２１名）
１１／７	しまね大交流会（オンライン開催）	３年生個人探究活動の成果発表 ３年生２名参加
１１／２	平田高校 地域協働フォーラム２０２１・秋	２年生班別探究活動の中間発表 ２年生全員の発表
３／９	平田高校 地域協働フォーラム２０２２・春	１年生個人探究活動の成果発表 クラス代表生徒２４名の発表 ２年生班別探究活動の成果発表 ２年生全員の発表

１１　目標の進捗状況，成果，評価

（１）本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

平成 30 年度の事業申請時、「高校魅力化アンケート」の結果をもとに、本校の状況及び事業内容に照らして成果目標を設定した（①）。

事業初年度にあたる令和元年度アンケートの結果について、肯定的評価の割合や他校との比較により検証したところ、①の設定目標の他にも、本校および地域の実情や課題を的確に示す項目が多くあることがわかった。

そこで、これらの項目を成果目標として任意で追加（②）し、より多角的に成果を検証することとした。

① 事業開始前の設定目標

項目	今年度 目標値	今年度 ７月	今年度 １２月
現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる	生徒:66%	75.1%	74.5%
問題意識を持ち、聞いたり調べたりすることができる	生徒:67%	64.0%▼	79.0%
自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めることができる	生徒:70%	70.5%	70.5%
自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	生徒:89% 大人:84%	92.3% 71.9%▼	94.6% 92.7%
自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	生徒:68% 大人:59%	64.5%▼ 62.5%	67.0%▼ 70.9%
難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦することができる	生徒:73% 大人:69%	82.5% 67.2%▼	76.7% 70.9%
地元中学生の入学志願割合	30.0%	29.6%▼	
将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	生徒:75%	74.6%▼	74.1%▼
将来、自分の今住んでいる地域で働きたいと思う	生徒:60%	60.4%	67.2%
地域で生徒を育てるという意識を持っている	大人:83%	84.4%	85.5%
立場や役割を超えて協働している	大人:74%	79.7%	72.7%▼

② 事業開始後に任意で追加した設定目標

項目	今年度 目標値	今年度 ７月	今年度 １２月
自主的に調べものや取材を行う(主体性)	生徒:71%	66.9%▼	70.3%▼
本音を気兼ねなく発言できる(主体性)	大人:64%	62.5%▼	79.9%
日本や世界の課題の解決方法について考える(社会性)	生徒:40%	54.9%	48.6%
学習を通じて、自分がしたいことが増えている(探究性)	生徒:73%	77.2%	80.0%
勉強したものを実際に応用してみる(探究性)	生徒:60%	63.1%	68.9%
複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ(探究性)	生徒:37%	47.5%	49.5%
自分を客観的に理解することができる(探究性)	生徒:66%	70.7%	73.6%
国や地域の担い手として、政策決定に関わりたい(社会性)	生徒:37%	54.2%	48.1%
私が関わることで、社会状況が変えられると思う(社会性)	生徒:43%	55.6%	54.7%
将来、見知らぬ土地でﾁｬﾚﾝｼﾞしてみたい(社会性)	生徒:62%	67.1%	69.1%
地域文化や暮らしを、自らの手で伝えたい(社会性)	生徒:54%	66.4%	63.9%
地域に尊敬している・あこがれている大人がいる (挑戦の連鎖を生む「安心・安全の土壌」)	生徒:49%	55.9%	57.8%
将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる (問う・問われる「対話の土壌」)	生徒:76%	77.2%	76.7%
いま住んでいる地域の行事に参加した(社会性)	生徒:43%	37.4%▼	36.6%▼
地域社会などでﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動に参加した(社会性)	生徒:35%	33.3%▼	34.0%▼
先生、保護者以外の地域の大人と何気ない会話を交わした(社会性)	生徒:58%	60.7%	60.8%
この学校に入ってよかったと思う(満足度)	生徒:82%	83.2%	84.2%

失敗してもよいという安心･安全な雰囲気がある （挑戦の連鎖を生む｢安心･安全の土壌｣）　　生徒と大人の差	26%	11.5%	15.7%
本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある （問う･問われる｢対話の土壌｣）　　生徒と大人の差	45%	23.1%	11.9%

（２）　地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）

項目	今年度目標値	今年度の実測値および評価
発表会来場者数	のべ６００人	３５０名 ・山陰探究サミット　１２１名 ・地域協働フォーラム秋　３０名 ・しまね大交流会（オンライン）１７２名 ・地域協働フォーラム春　２７名 〇校内で開催した地域協働フォーラムについては、新型コロナウイルス感染拡大を避けるため、外部への呼びかけは最小限とした。 〇臨時休業措置のため、準備を進めていた「しまね探究フェスタ」への参加を急遽中止した。

（３）　成果検証の概況

①　概況

今年度１２月時点で目標値に到達していない項目が６項目あった（地元中学生の入学志願割合を除く）。このうち、「いま住んでいる地域の行事に参加した」「地域社会などでボランティア活動に参加した」の２項目については、新型コロナウイルス感染拡大による、行事そのものの縮小が数値に影響を与えている。これらを除くと、今年度目標値との隔たりは最大で 1.3%となっており、概ね目標に近い数字となった。

②　生徒の状況について

６項目において５％以上の増減が見られた。そのうち上昇したもの（「問題意識を持ち、聞いたり調べたりすることができる」「将来、自分の今住んでいる地域で働きたいと思う」「勉強したものを実際に応用してみる」）については、地域協働学習を通して探究的にものごとを考えながら、地域で活動を行った成果であると考えられる。特に「平田プラタナスプラン」の骨子ともいえる「将来､自分の今住んでいる地域で働きたいと思う」生徒の割合は令和元年７月の事業開始時は 49.4%であったものが、年々上昇し、今年度１２月では 67.2%となった。

一方、下降した項目（「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦することができる」「日本や世界の課題の解決方法について考える」「国や地域の担い手として、政策決定に関わりたい」）をみると、困難な課題に挑戦していこうとする意欲の低下がうかがえ、コロナ禍での社会情勢の影響も推測される。事業開始時から課題であった自主性、探究性、社会性、自己有用感、挑戦意欲について、依然として改善が望まれる。今後も継続して次の取り組みを行う。

- 各教科・科目をはじめ、学校教育活動全体における探究的な学習をいっそう推進する。
- 主体的な学習者としての成功体験を積み上げて、高い目標に挑戦する意欲を高める。

③　大人の状況について

保守的な地域性も一つの要因となり、自分の思いを表出しにくく、挑戦意欲に欠ける傾向が前年度まで強く表れていたが、今年度１２月の調査では、「自分の考えをはっきりと相手に伝えることができる」「本音を気兼ねなく発言できる」の項目で上昇が見られた。良きモデルとなる大人の姿を生徒たちに示すために、次の点に注力する。

- さまざまな機会を捉え、「育てたい生徒像」を地域と共有し、その具体について意見を出し合うことによって、当事者としての生徒育成意識を高める。
- 定期的に教員研修を行うことにより、教員自身がスキルアップし、挑戦しようとする意欲の向上を図る。

１２　次年度以降の課題及び改善点

（１）　地域の方と直接話をする機会や、講演会を通して、自分のキャリアについて考えさせることが、生きる場所の選択肢として地域を捉えるきっかけとなる。キャリア学習と地域協働学習をタイミングよく組み合わせ、高校卒業後の進路にとどまらず、自分の生き方について考える機会を持たせたい。そのためのカリキュラム開発や修正を生徒の変容に合わせ、継続的に行っていく必要がある。名古屋研修旅行を来年度入学生からは２年次に実施するようにカリキュラムを変更した。（令和２年度、３年度は１年次に実施予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のために実施できなかった。）

（２）　地域との協働を主眼に置いて始めたこの事業を、地域と協働した生徒の探究的な学びへと発展させていくことが課題である。１年次の後半に行っていた個人探究のテーマを今年度から地域課題に限定し、２年次の班別活動へと繋げる予定である。個人探究の内容をもとに班編制を行い、生徒たち自身の話し合いによってさらに具体的な課題を設定し、地域をフィールドとした探究的な学習へと深めたい。教員が生徒に伴走し、適切にアドバイスを与えたり、見守ったりしながら生徒の学習を支援できるような研修の充実が非常に重要となる。次年度は年度当初に探究学習に関する教員研修を複数回、希望者による研修会を必要に応じて実施していく予定である。

（３）　地域協働学習の開始時には、教員の負担が増加する一面があった。今後は、教員の負担減となるような地域人材の開拓や協働体制の構築に取り組むことが求められる。例えば、今年度実施した「地域みらい学」では教員が授業案を作成して地域の地理、歴史について授業を行ったが、これなども地域人材に依頼が可能である。これまで築いてきた人脈を利用し、協力を得られる部分は積極的に依頼し、継続的に協働していけるようなパイプを構築する。

（４）　成果発表会の企画運営は総務部、進路関係行事は進路指導部など、役割分担をしながら事業を進め、行事の開催についての校内体制はほぼ完成している。今後は、地域協働学習の日々の授業をどのように充実させていくかという視点を重視し、学年会を中心として生徒の指導を行う体制の充実が求められる。地域協働学習の授業担当者の負担感を軽減するような意見交換の場を時間割内に組み入れること、研修によって伴走スキルを向上させることなど、負担の軽減が難しいとしても「負担感」の軽減につながるような教員の支援体制を作っていく必要がある。

（５）　今年度は地域協働学習の指針となるルーブリックの作成を行った。また、学期ごとの全体計画と授業ごとの授業案やワークシートを作成し、教員間の目線あわせを行った。今後これらをまとめ、年間の動きが分かるようなマニュアルを作成し、学習の質の向上を図る。

【担当者】

担当課	島根県教育委員会	ＴＥＬ	0852-22-6165
氏　名	長谷川勇紀	ＦＡＸ	0852-22-6026
職　名	教育魅力化推進員	e-mail	hasegawa-yuki@pref.shimane.lg.jp